

再評価結果（平成22年度事業継続箇所）

担 当 課：道路局国道防災課
担当課長名：深澤 淳志

| | | | | | |
|--|---|---|--|-------|-------------------------------|
| 事業名 | 地域高規格道路 ^{じょうえつうおぬま} 上越魚沼地域振興快速道路 一般国道18号 上 ^{じょうしん} 新バイパス | 事業区分 | 一般国道 | 事業主体 | 国土交通省 北陸地方整備局 |
| 起終点 | 自：新潟県上越市中郷区市屋 ^{じょうえつしなかごうくいちや} 至：新潟県上越市下源入 ^{じょうえつししもげんにゆう} | | | 延長 | 24.6 km |
| 事業概要 国道18号上新バイパスは、「交通渋滞の緩和」「ネットワークの充実強化」「地域開発の支援」などを目的とした延長24.6kmの4車線のバイパス事業である。 | | | | | |
| S 50 年度事業化 | S 50 年度都市計画決定 | S 50 年度用地着手 | S 53 年度工事着手 | | |
| 全体事業費 | 944 億円 | 事業進捗率 | 59 % | 供用済延長 | 17.6km(暫定2車線) 7.0km(完成4車線) |
| 計画交通量 | 9,700~44,000台/日 | | | | |
| 費用対効果分析結果 | B/C (事業全体) 1.9 (残事業) 1.2 | 総費用 (残事業)/(事業全体) 354 / 1707 億円 事業費：300 / 1624 億円 維持管理費：54 / 83 億円 | 総便益 (残事業)/(事業全体) 411 / 3322 億円 走行時間短縮便益：267/2741億円 走行経費減少便益：94/ 487億円 交通事故減少便益：50/ 94億円 | 基準年 | 平成21年 |
| 感度分析の結果 残事業について感度分析を実施 交通量変動：B/C=1.3（交通量+10%）B/C=1.0（交通量-10%） 事業費変動：B/C=1.1（事業費+10%）B/C=1.3（事業費-10%） 事業期間変動：B/C=1.1（事業期間+20%）B/C=1.2（事業期間-20%） | | | | | |
| 事業の効果等 ①新幹線駅である(仮称)上越駅へのアクセス向上 ・上越地方生活圏唯一の新幹線新駅の開業 ②直江津港へのアクセス向上 ・搬出入貨物の26%を関東及び長野・東海方面が占めている ③上越青果地方卸売市場へのアクセス向上 ・妙高市の農産品のほぼ全量が上越市に出荷 ④日常生活圏の中心都市である上越市へのアクセス向上 ・上越市～妙高市間の通勤者数が2,584人増加 ⑤開発拠点地区へのアクセス向上 ・上新バイパス沿線は商業・業務、広域運動公園、工業系を中心に開発が進んでいる ⑥主要観光地へのアクセス向上 ・沿線の観光入れ込み客数年間1,032万人(上越市、妙高市観光入込客数合計) ・休日の交通が多く7月の休日交通量は平日の1.13倍【残事業：約8億円※】 ⑦県立中央病院へのアクセス向上 ・当該道路の整備による救命救急アクセスの向上（時間短縮エリア人口29,764人）【全体：約29億円※】 ⑧冬期間におけるスムーズな交通の確保 ・冬期間における走行性の向上（降雪日実績：年平均47日）【全体：約79億円※】【残事業：約7億円※】 ⑨災害時の防災道路ネットワークの形成 ・高速道路と相互補完し、循環型の防災道路ネットワークを形成 ※は、供用後50年間の便益額として試算した値（参考値） | | | | | |
| 関係する地方公共団体等の意見 地域から頂いた主な意見等： ・国道18号は、周辺に商業・業務機能を中心とした施設の立地が進み、地域振興のためにも重要な役割を担っており、慢性化する渋滞の緩和や上信越自動車道、北陸自動車道、上越魚沼地域振興快速道路など一体となり広域的幹線ネットワークを形成し、その機能を十分に発揮するために、上越市から上新バイパスの早期整備の要望を受けている。 県知事の意見： ・事業評価にあたっては、救急搬送の時間短縮や冬期交通障害の解消など関係市町村の意向を十分反映し、事業継続として頂きたい。 ただし、高規格幹線道路の延伸や4車線化も地域交通に大きな影響を与えるものであり、今後の高速料 | | | | | |

金施策（無料化）の実施状況によっては、別途、地域において合意をとりながら優先度の再検討も可能と考える。

事業評価監視委員会の意見

- ・ 今後、高速道路の料金施策の実施が交通状況にどのような影響があるか考慮すべき。
- ・ 審議した結果、再評価及び対応方針（原案）の「事業継続」は妥当である。

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

バイパス周辺の商業施設立地等がすすみ、上信越自動車道の全線供用後も交通混雑が生じている。

事業の進捗状況、残事業の内容等

事業の進捗状況：平成21年度末で事業費558億円、進捗率59%、そのうち用地費は129億円で進捗率72%。
残事業の内容：暫定2車線区間L=17.6kmの4車線化整備。

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

岡原交差点～子安交差点間L=2.9kmを平成24年度に4車線供用を目指す。うち今池交差点～子安交差点間L=1.2kmは平成21年度の4車線供用を予定。

施設の構造や工法の変更等

施工にあたり、新技術の活用、コンクリート構造物大型化（長尺化）、プレキャスト製品の積極的活用、建設発生土の有効活用等により、コストの縮減を実施する。

対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

以上の事業の効果及びコスト縮減等の内容、事業評価監視委員会における審議、知事等の意見を踏まえると、事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。